親展

海軍電　昭和一五、九、二二

二十一日二十二時調印ノ運トナレル所佛印側ハ更ニ進駐日次ノ一日延期其ノ他新要求ヲ提出ス爲ニ交渉ハ停頓セリ

今日迄百方交渉妥結ニ努メタルモ彼ノ遷延策右ノ如キ次第ニシテ遺憾ナカラ二十二日居留民ト共ニ總引揚ヲ敢行スルノ止ムナキニ至レリ

（終）

陸軍

親展

海軍

一五、九、二二　一〇二二　東通受（四六一一）外務

發信者、電信課員　發信者、大海佛印派遣委員長

極秘電報

機密第一九五番電　二二一〇五〇〇

愛田總領事ヨリ外務大臣宛

二十日往電ニ關シ引續キ折衝ノ結果妥結好望ナリシ所二十一日夜軍司令官ハ總督ノ同意シタル案ナルニモ拘ハラズ署名サナナサズ翻ツサヘ進駐期日ヲ更ニ一日延期センコトヲ持チ出シ來リ交渉ハ殆ド絶望狀態ニ陷リタリ

尚在留民及暹羅國ハ二十二日引揚決行ノ筈。

REEL No. A-0269
0172
アジア歴史資料センター

秘

電報

昭和一五、九、二二

西原機關

中央ノ指示ニヨリ直チニ中村兵團ノ進駐及河内市内駐屯ノ要求ヲ撤回シ軍司令官ノ署名ヲ求メタルトコロ佛印側ハ「ホアラツク」飛行場ノ削除並ニ進駐日次一日繰下ケヲ更ニ提議シ來リタリ依テ飛行場ノ件ハ之ヲユズルモ進駐日次ノ變更ハ絶對同意スル能ハスト答ヘタルニ軍司令官ハ頑トシテ應セス交渉ハ遂ニ本二十二日〇三〇〇（東京時間）殆ント絶望ノ狀態ニ陷レリ

（終）

陸軍

S 1.1.1.0-59 1033 No. 246

REEL No. A-0269

0173

アジア歴史資料センター

緊急

一五・九 二二 一四三五

東通受 (四六四六) 特二二B 陸軍 参本

海軍次官・軍令部次長・陸軍次官・参謀次長・三連空司令官・二遣支艦隊長官・和集團長・波集團長 西原

支那方面艦隊参謀長

極秘暗號

河内電第四四九號 其ノ一、二

左記協定ニ對シ軍司令官ハ二十二日一三時署名セリ

右協定ヲ「ハノイ」ヨリ持参スルヲ以テ小官ハ約二時間後「ハイフオン」ニ於テ之ニ署名スル筈

左記

一、西村部隊ノ「ハイフオン」ヨリスル友好的進駐（二十三日〇〇時以降）

二、飛行場四個

三、中村兵團ノ佛領印度支那通過差支ナシ

實行ノ細部ハ速ニ協議決定ス

通信先 兩次長 兩次官 南支方面軍 第二十二軍 二遣支艦隊 三聯合航空隊。

三共一

軍務局

緊急 緊急

一五九 二二 一四一六 東通受 (四六四四) 特二二B 陸軍 6

二遣支艦隊参謀長・大海・廣州灣派遣委員長（占守氣付）

第二十一聯遂隊司令・三水駐司令官 子日 聯遂艦長

（通報表示）大海参一部長・支那方面艦隊・波集團各参謀長

極秘暗號

機密第六六四番電

協定成立署名ヲ了セリ。

二二一三〇〇

REEL No. A-0269

0174

アジア歴史資料センター

アジア歴史資料センター

REEL No. A-0269

0 1 9 5

一三九二二一三〇 東海受（四六四七）

海軍部大臣 長官

大海佛印派遣委員長 特外陸 二二 已陸軍

支那方面艦隊、第二遣支艦隊各司令長官、第三航空司令官
大海艦隊派遣委員長（占守氣付）

機密第一九八番電 二二一一三三〇

二十二日協定成立、三〇〇佛側署名ヲ了セリ

一五〇〇我方署名ノ豫定。

DB

S 1.1.1.0-59 1036 249

次官ヨリ
情報部
第一課

電信課長

管主 歐亜局長

任主 第三課長

発電係

電送第 31638 號
昭和 15年9月22日前後 7時 分発

宛 在ヴィシー 沢田大使

発 松岡大臣

件名 佛印現地交渉成立一件

記録件名

昭和十五年九月二十二日起草

暗 略 第 四三九 號 大

往電左ノ如シ二一五号ニ関シ

本二十二日午后四時半（東京時）佛印軍代表ト現地細目協定調印ヲ了セリ

（後）

（後）

（後）

次官ヨリ第二

アト 情報部 第一課

31652

(分類)

電信課長

電信案

晴 半時

電送第31640號

昭和15年9月22日 午後 時 分 發

管 歐亞局長

主 第三課長

任 主

昭和十五年九月二十二日起草

件名 佛印現地交換成立ノ件

宛 (往電本邦キ二八子ノ通 別記)

記錄件名

發 松岡大臣

往電左ノ如キ二八子ニ關シ

本二十二日午後四時半(東京時)現地細目協定調印ヲ了セリ

合第二一二五號

大

外務省

(日本標準規格B5)

S 1.1.1.0-59 1039)(252

電信課

電信案

(原議用紙乙)

(緩ヲ佛側トノ折衝ノ次第モアルニ付)

佛領印度支那駐兵協定成立後(多分二十三日中ニ)

我軍進駐開始

往電左ノ如キ二一九子ノ趣意ヲ行フコトセリ

英、米、寿府、上海、漢口、廣東、香港、北京、天津

青島、廣東、新嘉坡

寿府ヨリ独、伊、蘇ニ特電アリタシ

米ヨリ独、伊ニ特電アリタシ

新嘉坡ヨリ「バタビア」馬尼剌、「タイ」ニ特電アリタシ

外務省

S 1.1.1.0-59 1040)(253

REEL No. A-0269

0177

アジア歴史資料センター

外務省

極秘

電報

次官
次長 宛

大海佛印派遣委員長 発

昭和一三年九月二三日 一三三〇 二二〇〇 一四三〇 著

機密第一九八番電

二十二日協定成立一三〇〇佛側署名ヲ了セリ ?/? 一五〇〇我ガ方署名

ノ豫定

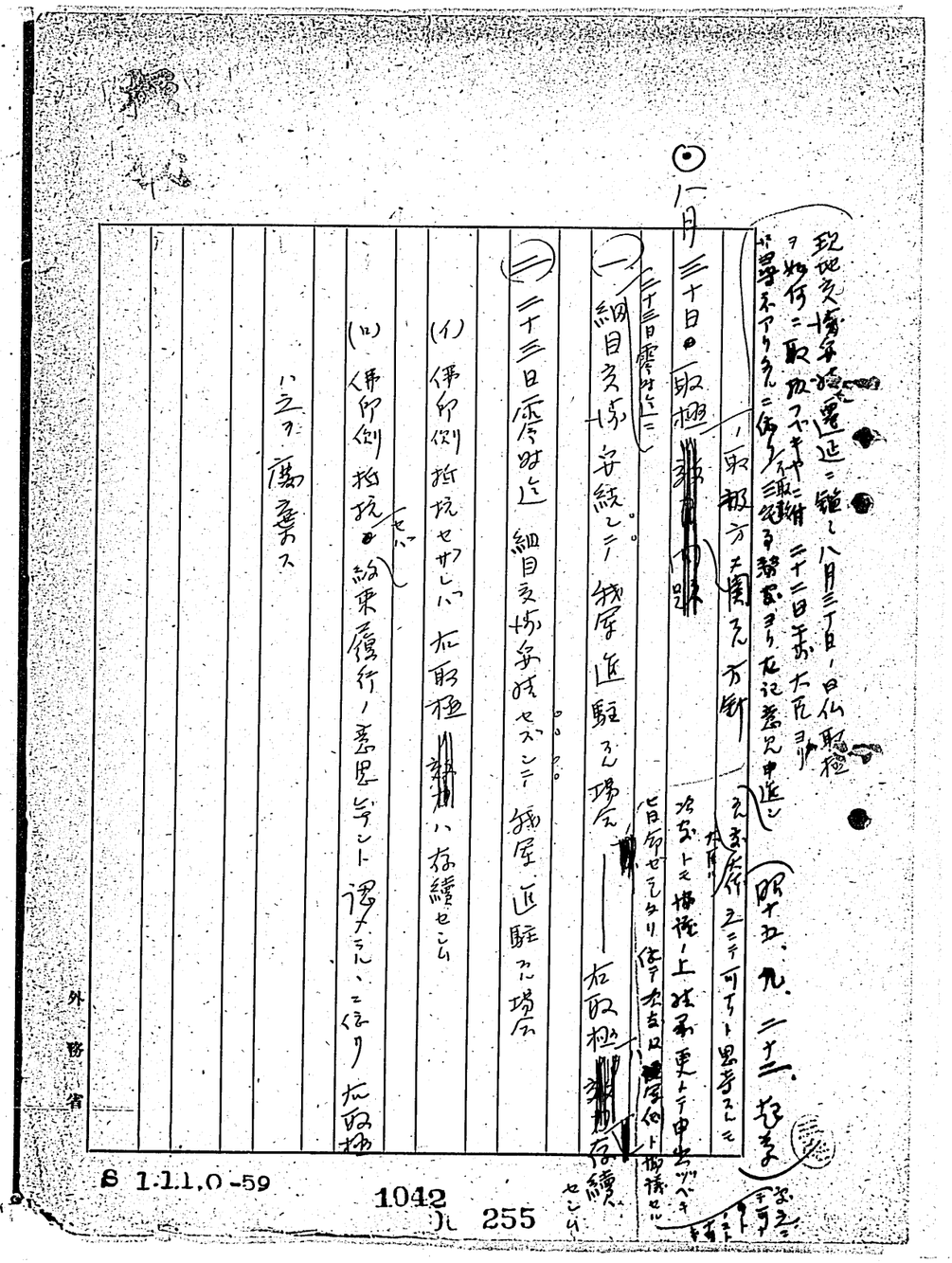
（終）

S 1.1.1.0-59 1041)(254

REEL No. A-0269

0178

アジア歴史資料センター



現地交換案進達ニ關シ八月三十日、日仏取極ヲ物件ニ取扱フベキ件ニ付三十一日第六回大臣ヨリ異存アリタルニ付テハ取扱方ニ關スル方針

一、取扱方ニ關スル方針

昭十五、九、二十二、起案

○八月三十日ノ取極

一、三十日電報ニ

細目交換案ニ關シテ我案進駐スル場合

右取極

旨申セシタリ仏ニテ未ダ回答ヲ得ザル旨ト雖モ上述案ニ更ニテ申出ツベキ

右取極

二、三十三日電報ニ

細目交換案ニ關シテハ我案進駐スル場合

(イ) 仏印側抵抗セザルトキハ右取極

(ロ) 仏印側抵抗セバ

(ハ) 仏印ハ存續セシム

ハ之ヲ傷害ス

外務省

S 1.1.1.0-59

1042

255

極秘 大日本帝國政府

佛印問題ニ關スル昭和十五年九月二十二日松岡大臣「アンリー」大使會談錄及其ノ他事項

歐亞局第三課

一、松岡大臣・「アンリー」大使會談（約三十分間）ノ件

「アンリー」佛國大使午后一時本大臣ヲ私邸ニ來訪シ「ヴィシー」ノ佛國政府ヨリ至急外務大臣ヲ往訪シ佛印ニ關スル八月三十日ノ日佛兩國政府間ノ取極及之ニ基ケル佛印現場ニ於テノ軍事ニ關スル細目協定交渉ニ付實情ヲ述ベ最後通牒ノ日限ヲ延期セシコトヲ特ニ外務大臣ニ御願スベシトノ至急電訓ニ接シタリトテ佛印總督ニ於テモ決シテ細目協定ノ誠意ニ非ズ例ヘバ既ニ二十日午后八時ニ細目協定ニ特ニ調印セント覺悟シ居リタルニ日本側ハ其ノ間際ニナリテ更ニ新シキ要求ヲ爲スト云フガ如キ有樣ニテ現ニ自分モ二十日調印ノ運ビトナルベシトノ電報ヲ總督ヨリ受取リ大イニ喜ビ居リタルニ右樣ノ次第ニテ又々延期セラレ甚ダ心配シテ居ル次第ナリ云々ト述ベ日本側ハ三千乃至五千ノ兵員ヲ上陸駐屯セシム

S 1.1.1.0-58

1043

256

REEL No. A-0269

0179

アジア歴史資料センター

ベシト云ヒ出シ置キ乍ラ二萬五千ヲト云フ如キ有様ナリトテ其ノ苦衷ヲ訴ヘタリ

右ニ對シ本大臣ハ左様ナル事情ハ承知セズ其レハ何等カノ誤解又ハ行違ナラン兎モ角何レノ國ニテモ「シークレット・サーヴイス」ヲ有シ居ルガ我ガ「シークレット・サーヴイス」ノ報ズル所ニ依レバ實ハ佛印總督ハ故意ニ日佛兩國政府間ノ取極實行ヲ延期シ不實行ニ終ラシメント全力ヲ盡シ居リ、英、米、支領事官等ニ對シテ其ノコトヲ自慢スラナシ居レリ

本大臣ハ其レニ付確實ナル證據ヲ握リ居レリ又英米支領事官等ハ政府達モ其ノコトヲ激勵シ居ル様ナ次第ナリ我政府ハ斯カル事實スラ夙ニ知リ居ルニ拘ラズ一方ニ「ベタン」元帥始メ佛國政府當局者カ眞摯ニ日佛國交ヲ顧念シ居ラルルノ誠意ニ鑑ミ、忍ビ忍ビ隱忍ヲ重ネテ飽ク迄過般ノ兩國政府間ノ取極ノ下ニ圓滿ナル妥結ヲ見タル上軍事行動ヲ開始センコトヲ期シ極度ノ努力ヲ爲シタリ。蔣ニ對

スル作戰上一日モ許スベカラザル急迫セル事態ナルニモ拘ラズ既ニ三週間モ忍ビタル次第ナリ然シ最早此ノ上ハ際限無ク故意ニ遷延セントスル相手ト交渉スル譯ニハ行カザルニ付日本政府トシテハ甚ダ好マザル所ナルモ萬已ムヲ得ズシテ最後通牒ヲ爲シタルナリ此ノ上ハ所謂期限ヲ延長スルガ如キハ不可能ナリト思惟ス

然レドモ佛國政府ノ折角ノ御賴ミ故本日深夜中ヨリ三日間延長スルノ趣旨ヲ以テ一應軍當局ト直ニ交渉ヲ試ムベシ尤モ右ガ成立スルヤ否ヤ請負フ譯ニ行カザルノミナラズ其ノ成立ハ頗ル困難ナリト豫期ス兎モ角右ノ次第ヲ至急報ヲ以テ本國政府ニ電報セラレ度シ何レ其ノ結果ハ遲滯無ク通報スベシト答ヘタリ

二、大橋次官軍側トノ折衝及「アンリ」大使ヘノ回答ノ件

次デ大橋外務次官ヲシテ陸海軍大臣ニ交渉セシメタル處陸軍大臣

REEL No. A-0269
0180
アジア歴史資料センター

ノ意見ニテハ今ヨリ直ニ電報スルモ到底出先軍隊ヘハ間ニ合ハザルベシ手違ヒ生ジテハ尚ノ事面白カラズ且奉勅命令事項ニ付既ニ一度延期シタルコトニテモアリ此ノ上ノ延期ハ軍トシテ採ラザル所ナリトノ意見ナリシヲ以テ本件ハ之ヲ以テ打切リトナスニ決定シ、直ニ大橋次官ヲシテ「アンリー」佛國大使ヲ往訪セシメ右延期不可能）ナル所以ヲ告ゲ且ツ我軍ハ八月三十日ノ取極ノ下ニ其ノ精神ニ基キテ行動スルモノナルコト從テ我方ハ彼我ノ衝突ヲ欲セザルヲ以テ直ニ佛印ニ於ケル佛那軍隊ヲ引下ゲ衝突ヲ避クベシトノ至急電ヲ大使ヨリ發セラレンコトヲ要求スル旨ヲ告ゲシムルコトトセリ

三、大橋次官獨大使會談ノ件

尚前述佛國大使ノ本大臣來訪ニ先立チ大橋次官ヲシテ不取敢在京

獨逸大使ニ對シ佛國側カ飽迄我出先官憲ノ交渉ニ應ゼザルニ於テハ止ムヲ得ザルニ付本日夜半ヨリ殘軍隊ハ佛印ニ於テ行動ヲ開始スベキ旨ヲ豫報セシメ置キタルニ獨大使モ亦之ヲ諒トセル由ナリ

（以上　松岡大臣口授ヲ三宅筆記）

REEL No. A-0269

0181

アジア歴史資料センター

外務省

至急

秘電報　昭和一五、九、二三

九、二二、一四、五五発
二〇、三〇着

和集戰参電第四號

次長宛　和集團参謀長

二十一日愛店東北ニテ交戰セシ敵ハ支那軍(不正規軍)ナリ

終

S 1.1.1.0-59　1048　261

REEL No. A-0269

0182

アジア歴史資料センター

外務省

至急

昭和一五、九、二三、

九、二二、四、一〇発、
九、二二、八、〇五着

秘電報

和集戰參電第二號

次長宛

和集團參謀長

一、楠本部隊ハ二十一日「ナカ」(隘店東北一粁)南方高地ヨリ来襲セル約一五〇ノ敵ヲ撃退セリ我ニ損害ナシ

二、隘店西方部落内ニモ約一五〇ノ支那軍アリ詳細部ハ目下捜索中ナリ

通電先、汕參、

(終)

REEL No. A-0269
0183
アジア歴史資料センター

外務省

秘電報　九、三、二〇発　四五着

昭和一五、九、二三

第二四七號

總務部長宛　泰國公使館附武官

「ロイテル」香港二十一日電、「香港、「デイリー、テレグラフ」」ガ確實ナル筋ヨリ知ル所ニ依レバ佛國ハ支那軍ガ佛印ニ進入スルコトニ反對セザル旨約束セリト、又最近重慶ニ於テ支、佛ノ代表ガ協議セル結果支那軍ガ佛印ニ進攻スルニ當リテハ互ニ軍事的協力ヲ爲スコトヲ決議セリト、以上眞僞不明ナルモ參考迄

西原機關宛

(終)

REEL No. A-0269
0184
アジア歴史資料センター

(分類　　)

31808

電信課長

主管 欧亜局長

主任 第三課長

発電係

暗号略

電送第 31787 号

昭和15年9月23日 午後8時20分発

宛 米、仏、南京、漢口、北京、天津、上海、香港、バタヴィア、ハノイ、マニラ、

発 松岡大臣

件名 佛印問題ニ関スル件

記録件名

第二一三号

佛印現地組織協定ガ成立セザリシニ十二日午後二時二十分佛大使布大臣ヲ来訪本国政府ヲ最後通牒ノ日限延期方ヲ特ニ外務大臣ニ申願ス（ヘシ）トノ至急電訓ニ接シタリ

昭和十五年九月二十三日起草

電信案

外務省

ト述ベ佛印総督モ誠意ナキニ非ズ現ニ二十日細目協定調印ノ意向ナリシニ日本側ヨリ抗議要求ヲ提出セン為延期ノ已ムナキニ至レリト苦衷ヲ訴ヘタルニ付本大臣ハ右称ノ事実ハ何等承知セザルモ各地ニ於テ小セン確実ナル情報ニ依リ我方ハ総督ガ英、米、支官憲ト策謀シテ取極ノ実行遷延ニ努メ居ルコトヲ承知シ居ルガ而モ猶細目交渉ヲ妥結後軍事行動ヲ開始スル様取運ブコトニ最善

電信案

外務省

REEL No. A-0269
0185
アジア歴史資料センター

ヲ畫シ対支作戦上急迫セル事態ニモ拘ラズ三国間隠忍シ来レリ然レドモ此ノ上ハ故意ニ遷延策ヲ弄スル相手ト交渉スル譯ニ行カザルニ付期限付申入ヲ再ス ノ已ムナキニ至ツタル

次第ニシテ最早延期不可能トハ思惟スルモ三日間延長不能ナリヤ否ヤ一應軍当局ニ交渉スベシ但シ成否ハ諸員ニ將ス旨

至急本国政府ヘ電報アリ度シト答ヘ置キタリ

仍テ次官ヨリテ軍側ト交渉セシメタル処直ニ電報シテモ到着遅

軍ニハ間ニ合ハサルヘキヲモナラズ奉勅命令事項ニ付一度延期セン関係モアリ此ノ上延期ハ不可能ノヨトナリシニ付直ニ次官ヨリシテ伊大使ニ対シ延期不可能ノ旨ヲ告クルト共ニ我軍ノ行動ハ両国軍ノ取極ノ精神ニ基クモノニシテ我方ハ衝突等ノ事故発生ヲ好マルニ付伊印側ニ於テモ右ノ為必要措置ヲ採ラレ度急報ス合方要求セシメ置キタリ

右御参考迄

REEL No. A-0269
0185
アジア歴史資料センター

切電発先　米、ケイし、上海、香港、漢口、出先、南京

天津、青岛、マニラ、バタヴィア。

米ヨリ紐育へ、ケイし ロリ 新嘉坡へ、香港ヨリ

廣州へ、　青岛ヨリ　英、佛、伊、蘇へ

切電アリ和ン

電信案

外務省

REEL No. A-0269
0187
アジア歴史資料センター

外務省

極秘

電　報　報

九二二一七四〇發
二三二一七三二著

昭和一五九二四

次長宛

第二五〇號

佛印問題惡化ニ伴ヒ「ビーシー」政府ノ態度ハ一昨二十日頃依然事態ノ推移特ニ日本ノ東亞ニ於ケル地位ヲ確認シ佛印ノ領土保全ノ爲ニハ日本ニ對シ相當ノ讓歩モ止ムヲ得ザルベキコト並ニ困難ナル本問題モ兩者ノ圓滿ナル交渉裡ニ進展シツツアルコトヲ知ラシメツツアルモノト判斷セラルル故ニ事實上協定成立以前ニ國軍ノ進駐ヲ見ルモ之ハ飽ク迄兩者合意ノ下ニ實現セシモノナルガ如ク發表事態ハ最惡ノ情勢ニ立到ラザルベシト思ハルヽ然レドモ佛印總督ガ「ビーシ

佛國大使館附武官

ー」政府ヨリ相當離隔セルニアラザルヤト觀測セラルル節アルヲ以テ國軍ノ獨斷進駐ノ場合佛印軍ノ取ルベキ態度ニ關シテハ當方ニ於テ斷定スルコト困難ナルモノアリ

（終）

REEL No. A-0269

0188

アジア歴史資料センター

A7.0.0.9-1-10

46

十四、第二次現地協定交渉（細目協定）

九月四日調印ヲ見タル軍事協定ニ關シテハ大体六日中ニ細目協定成立ノ見込ナリシガ、同日朝鮮支國境諒山方面ニ日本軍一部隊ノ越境事件ノ發生ヲ見タル為翌七日總督ハ西原少將ニ對シ協定違反ヲ理由トシテ交渉ノ一應打切方申出テ來レリ（右ニ關シ西原少將ハ右越境事件ハ未タ軍事協定ノ成立ヲ知ラザル一前線部隊ノ獨斷ニ基クモノニシテ決シテ日本軍憲ノ意思ニ非サル旨縷々釋明シタルモ先方ノ態度更ニ變化ナク一ニ交渉遷延ニ努ムルガ如ク認メラレタリ）河内來電九・八日第二〇五號、第二〇六號、壽府往電九・八日第八四號

仍テ中央ニ於テモ在佛澤田大使ニ對シ本件解決ガ之以上遷延スル時ハ不測ノ事態ヲ惹起スルノ虞アルニ付佛本國政府ヨリ佛印總督ヘ急速妥結方訓令アル樣軍ネテ佛側ニ申入レシメタリ（佛往電九・十日第四一七號、佛來電九・十二日第七三六號）

其後十一日在京佛大使ハ大橋次官ヲ來訪、日本軍進駐ノ場合之ニ呼應

47

シテ「タイ」國軍モ亦佛印ニ侵入スルヤノ情報ヲ得居ル處斯クテハ益々收拾シ難キ事態トナルニ付日本政府ヨリ「タイ」側ニ右企圖ヲ中止スル樣斡旋方申出來リタルニ依リ翌十二日次官ハ佛大使ノ來訪ヲ求メ右ハ佛「タイ」間ノ問題ニシテ我方ノ關知スル所ニ非ズ今回ノ佛側申出モ一ニ從來ノ佛側遷延策ニ外ナラザル旨述ベ又石澤歐亜局第三課長ヨリモ佛大使館「ダンテュラン」書記官ニ對シ口頭ヲ以テ重ネテ右ノ趣旨ヲ申入レタリ。（河内、磯谷往電九・十一日第一九四號、九・十一日次官佛大使會談要領、九・十二日、歐亜課長佛書記官電話要領、九・十二日次官佛大使會談要領）

REEL No. A-0269
0189
アジア歴史資料センター

大日本帝國政府

我軍事的要求ハ対支作戦遂行ノ為ニモ速ニ実現スベキモノトシ、而モ佛側ノ誠意ナキ態度ニ鑑ミ善通ノ交渉方法ニ依リテハ短日月ニ妥結ヲ見ルコト至難ナリト認ムラレルニヨリ、我方ニ於テハ九月十三日四相会議ニ於テ左ノ通決定シ之ヲ内奏シ置キタリ

（国定規格B5、一五×二七行）

政府統帥部議後不取敢

（木戸蔵）

九月十三日
四相会議決定ヲ挿ム

九月十三日西原少將ガ總督ト會見セル處總督ハ本國政府ヨリ交渉繼續ヘシトノ訓令アリタルヲ以テ佛印軍司令部ニ於テモ目下鋭意細目ニ付研究中ナリト述ベタルガ爾來交渉ハ進捗セズ（十河内來電九一四号第二二二二号）東京ニ於テハ十六日佛大使ハ次官ヲ來訪、本件交

REEL No. A-0269
0130
アジア歴史資料センター

（大橋治官ハ現地交渉妥結遅延ノ責ハ一ニ佛側遅延リト思惟シ右ノ如ク「アンリー」大使ニ対シ強硬申入レヲ為シタル為茅ナルガ、実ハ現地日本軍ハ我陸軍側ガ中央ニ於ケル談合以上ノ要求ヲ持出セル事ニモ因ルコト後日判明セル趣ナリ）

涉ノ遅滯ハ日本側ノ責任ナルコト及「アンリー」ノ策動ハ日本側分背後ニアル事等ヲ再ビ述ベタルニ依リ次官ハ右ヲ反駁シタル上現地ノ情況ハ最早猶豫シ難キ事態トナリ此儘ニテハ我軍ハ細目協定ヲ俟タズ隨時進駐ヲ開始スベキヤモ知レザルヲ以テ佛國政府ハ直ニ佛印當局ニ對シ速カニ細目協定締結方訓令アリ度キ旨申入レタリ（最重要）

（別紙）

往電九、十六日合第二〇五七號ノ十七日佛印總督及軍司令官ヨリ我方要求ニ大体同意ナル旨述ベ來リタルガ我方ニ於テモ佛印軍隊ト相當ノ衝突ハ絶ニ慮ル事ナシト認メラルルヲ以テ西原

（現地日本側ニ対シ）

（佛側ニ対シ）

日本軍ハ平和進駐スル場合ニ於テモ佛印軍隊ト相當ノ衝突ハ絶ニ慮ル事ナシト認メラルルヲ以テ西原

（ベト判明セリ）

免レザル（ベト判明セリ）并ニ在留民全部ニ對シテハ不取敢二十日引揚ノ予定ヲ以テ待機セシムルコトトセリ（ベト河内ノ意味ニ於テ）

外號ト第二十七號、第二十九號、河内往電九、十六日第二三九號、第二三三號、第二三七號、第二四〇號ト西貢來電九、十七日第八號ノ如ク十八日佛印軍司令官ヨリ回答アリタルガ彼我双方ノ言分ニ相當ノ開キアリ（ベト）以上交渉ヲ重ネルモ効果ナシト認メラルルヲ以テ西原

大日本帝國政府

少將ハ佛印側ニ対シ監視團ハ月ヲ二十日河内ヲ出発スベキ旨通告シ又中央ニ於テモ九月十三日ノ四相会議決定ニ基キ十九日大橋次官ヨリ「アンリー」佛国大使ヲ招致シ我軍ハ八月三十日ノ東京取極及同三十日ノ「アンリー」大使ノ次官ニ與ヘタル約束ニ基キ九月二十三日ノ零時（東京時間）以降、細目協定ノ成否又ハ交渉継續中トモ拘ラズ隨時佛印東京州ヘノ進駐ヲ実施スルコトニ決セリ但シ右進駐ハ日佛間ニ成立セル前記協定ニ基クモノニシテ友好的精神ヲ以テ行ハントスルモノナリ右ノ次第ニ鑑ミ佛国政府ハ佛印当局ニ対シ速ニ細目協定ヲ今日迄ニ妥結スル様厳重勧告セラレ度シトノ申入ヲ行フト共ニ、他方最要ノ場合ニ處スベキ佛印在留邦人ヲシテ引上準備ヲ行ハシムル様本省ヨリ出先ニ対シテハ正式ニ訓令セリ

（ベト）

其ノ後モ現地彼我ノ間ニ数次折衝行ハレタルモ効果無ク

（ベト後進駐実施ノ時日ノ一日延期スベシ）

（國定規格B5（八×三〇）三〇行）

REEL No. A-0269
0139
アジア歴史資料センター

大日本帝國政府

二十日河内方面我部隊ハ特務機関及「スラバヤ」ノ一部ニ乗船シテ西貢方面ヲ経由西貢港ヨリ「アリフナ」丸ニ乗船シテ向日海口向ケ出帆セリ他方ハ鎮南関方面ヨリ那須ヘ長ク待機シ居タル我部隊ハ(固定規模[illegible])

(詳細目安協定ノ成立ニ伴ヒ)中部ノ仏印ニ進駐シテ二十三日零時ヲ待タズシテ二十一日夜(仏印)那須ヘ進駐ヲ開始シ之ガ為ニ仏印側ハ(ランソン)ノ守備隊ハ海防ヘ撤退セリ

(日、仏印両軍間ニ衝突ノ発生セリ)

(其後ハ)海防ヘ撤退セリ

(其後ハ)海口ヘ向ケ撤退セリ

我海軍側ハ陸軍部隊ノ越境進駐ニ憤慨シ、我海軍側ハ二十二日決然海防ヲ引上ゲ海口ヘ向ヒタリ

而シテ前記ノ海防及「スラバヤ」ノ一部モ二十二日正午(現地)ヲ期シ海口向ケ出帆スルニ至リ

右事態ニ驚キ仏側モ急転安協的妥協ニ出デ遂ニ二十二日午后二時半(本京時間)細目協定(別紙第十三号)ノ調印ヲ見ルニ至リ

(仏側ハ我軍ノ進駐開始直後日仏双方ニ於テ)

(我軍ノ進駐ハ)

(高山仏印駐屯部隊ハ境界ヲ越ヘ我陸軍中央ノ指揮ヲ待ツ)

(安藤南支派遣軍指揮官ハ)

(南支派遣軍ハ)

(其後)

(現地ニ於テ仏側ト)

(交渉ヲ行ハシメタリ)

(閣議ニ於テ)

(閣議ニ於テ)

(閣議ニ於テ

53

二三字下ケル

佛印軍事問題細目交渉妥結後之ニ基キ我軍進駐スル場合進駐後發表スベキ「外務省發表」文

日本軍ノ佛印進駐直後日佛双方ニ於テ行フベキ妥当ナル

（佛側ト打合濟）

東亞新秩序建設及支那事變解決ニ資スル目的ヲ以テスル佛領印度支那ニ關スル基礎的話合ハ去ル八月中東京ニ於テ松岡外務大臣ト「アンリー」在京佛國大使トノ間ニ友好的精神ヲ以テ行ハレ（タリ）（右）話合中ニ於テ我方ハ極東ニ於ケル佛國ノ權利及利益特ニ印度支那ノ領土保全並ニ同聯邦ノ全部ニ對スル佛國ノ主權ヲ尊重スル意嚮ヲ有スル旨ノ保障ヲ佛國ニ與ヘ佛國側ハ印度支那ニ於テ帝國陸海軍ニ對シ其ノ作戰行動遂行ノ爲必要ナル特殊ノ諸便宜ヲ供與スヘキコトヲ承諾セリ

尚右軍事上ノ便宜供與ニ付具体的決定ヲ行フ爲河内ニ於テ日佛軍當局間ニ話合行ハレタル處九月　日圓滿妥結ニ到達セリ

外務省

（日本標準規格B5）

277

REEL No. A-0269

0193

アジア歴史資料センター

大日本帝國政府

所謂

後テ協同アンパシ協定ニ関シテハ未ダ何等ノ発表無カリシ若干ノ地域ニ於テハ現地軍部ハ既ニ十三日零時以前ニ進駐ヲ開始セリ事実ノ推移ハ我方ノ予想ヲ超エ日佛両軍ノ衝突ハ細目協定ノ成立ヲ待タズ我軍ノ進駐開始トノ間ニ時間的隙間ヲ生ジタルモ特ニ問題ニ発展スルガ如キ事態ハ無カリシ

佛印軍ノ抵抗ヲ受ケ相当ノ激戦ヲ行ヒ、爾後ニ於テ、我軍ハ佛印ニ対シ、「ランソン」附近ニ於テ、「ドンダン」、「ランソン」ヲ経テ、「アンリー」ニ至リ、此ノ間国境ヨリ進駐セル

仏印ノ抵抗ハ我方ノ予想ヲ超エ、我軍ハ専ラ佛印ニ対シ、「ランソン」、「ドンダン」、「アンリー」ニ於テ、一日夜以来

（國定規格B5 [illegible]）

（飯塚）

（及我方対策ヲ含ム）

（情況トナリタルガ）

（当然）

何等ノ発表ヲモ為サザリシトキハ、我軍ガ専擅ニテ佛印

（恰モ日佛ガ何等ノ了解無カリシ）

進駐ヲ強行セルガ如キ印象ヲ与ヘ、我方

（限リニ）

前記発表ニ対シ、佛印ニ於ケル佛国ノ主権及佛印ノ領土保全ノ尊重ニ云々ノ部分ヲ削除スル等ノ修正ヲ施シ、三十三日夕刻ニ至リ、我方ノ要請ニ応ジ、外務省情報部長ノ別記ノ如キ通ノ発表ヲ行ヒ、日佛ノ間ニ発表セリ

（表面ハ佛印ノ主権尊重ヲ強調シ、実ハ佛印ノ主権ヲ侵ス）

（此ノ発表ハ）

（[illegible]）

（[illegible]）

（[illegible]

佛印問題交渉妥結に關する外務省發表

昭和十五年九月二十三日

支那事變を解決し東亞新秩序建設に資する目的を以て佛領印度支那問題に關し松岡外務大臣は去る八月中東京に於てアンリー在京佛國大使との間に友好的精神を以て基礎的話合を行ひたり

右話合に於て佛國側は支那事變完遂上帝國陸海軍が印度支那に於て必要とする軍事上の便宜供與を凡て承諾せり

尚右に基き現地に於て具體的決定を行ふ爲爾來在河内日佛軍當局間に交渉行はれ居たる處漸く九月二十二日午后妥結に到達せり

S 1110-59 1067

REEL No. A-0269

0195

アジア歴史資料センター

A1.1.0.30-49

佛領印度支那國境附近ニ於ケル紛爭ニ關スル領事情報部長談

昭和十五年九月二十三日

永イ間國境自重ノ歴史ヲ以テ漸ク妥結ニ達シタ日佛間ノ佛領印度支那ニ關スル諒解ニモ拘ラス國境地方ニ於テ紛爭ヲ生スルニ到ツタノハ全ク佛印側ノ誤解ニ依ル事デアリ自然コイ誤解ハ近ク去リ妥結ヲ見タ話合通リ圓滑平和的ナ實行カ見ラレル事デアラウ

日佛兩國間ノ平和的ナ話合ニ基ク事デアツテ見レハ如何ナル外國カラモ文句カアラウ筈ハ毛頭ナイ。

外務省

(日本標準規格B6)
6.1.1.0-39
1068

REEL No. A-0269
0196
アジア歴史資料センター

Statement of the Foreign Office Spokesman.

September 23, 1940.

Despite the understanding reached between Japan and France with regard to French Indo-China after a prolonged negotiation in which Japan manifested consistent patience and forbearance, a local skirmish has occurred in the border region of French Indo-China. This is entirely due to misunderstanding on the part of French Indo-China. Therefore, it is expected that the agreement concluded between Japan and France will be smoothly and peacefully carried out with the French misunderstanding naturally dispelled.

Inasmuch as the present agreement between Japan and France has been based on peaceful talks between the two countries, there could be no objection to it from any other foreign country.

A 1.1.0.30-49

Announcement of the Foreign Office regarding the conclusion of negotiations with reference to French Indo-China.

September 23, 1940.

With a view to settling the China Affair and thereby facilitate the establishment of a new order in East Asia, the Foreign Minister, Mr. Yosuke Matsuoka held conversations in a friendly spirit with the French Ambassador, Mr. Charles Arsène-Henry, on basic matters regarding the question of French Indo-China at Tokyo during the month of August of this year.

As a result of these conversations, France agreed to afford in French Indo-China all such facilities of military nature as are requred by the Japanese Army and Navy for executing their campaign for the settlement of the China Affair.

On the basis of this agreement, negotiations were conducted on the spot -- at Hanoi -- for the purpose of deciding upon concrete matters between the Japanese and French military authorities, which resulted in an agreement in the afternoon of September 22.

REEL No. A-0269

0197

アジア歴史資料センター

佛領印度支那國境附近に於ける紛爭に關する情報部長談

昭和十五年九月二十三日 朝日

永い間隱忍自重の態度を以て漸く妥結に達した日佛間の佛領印度支那に關する諒解にも拘らず國境地方に於て紛爭を生ずるに到つたのは全く佛印側の誤解に依る事であり自然この誤解は近く去り妥結を見た話合通り圓滿平和的な實行が見られる事であらう日佛兩國間の平和的な話合に基く事であつて見れは如何なる外國からも文句があらう筈は毛頭ない。

大日本帝國政府

右発表ニ対シ「アンリー」大使ハ豫テノ打合セト相違スル旨ヲ述ベ不滿ノ意ヲ表シ来リたるが

日佛軍ハ

我方ハ回佛ノ誠意ヲ認メ撤兵ニ基キ進駐ヲ開始セル次第ナリ

佛印軍ガ抵抗セザリシ事実ヲ生ジタルニ鑑テ

打合セトハ異リタル事態トナリタルニ鑑テ我方軍隊ニテ

右様ノ発表ヲ行ヒタル次第ナリ 就テハ佛印軍ヨリシテ速カニ

抵抗ヲ止メラレタル様 佛国政府ヨリ至急現地ニ訓令セラレ

度シト願ヒタリ

中央及現地ニ於テ我ノ折衝並ニ我前線部隊ノ嚴

命発令等ニ依リ右紛爭モ漸ク二十五日ニ至リテ鎮靜シ

我軍ハ佛印側ニ対シ十分ノ誠意ヲ以テ

大元帥陛下ノ大御心ニ基キ偉績及捕獲品ヲ

佛印國境ニ返還セリ

之ヨリ先九月二十四日帝國軍艦「川内」艦上ニ於テ西原少將

ト佛印軍司令官代表者トノ間ニ軍事協定ニ関スル最

終的取極成立シ我派遣部隊ノ大部分ハ二十五日海防ニ

入港ノ上陸ヲ開始セリ

右上陸進駐ハ

同二十五日ヨリ開始セラレタリ

(國定規格B5(二六×三五)原稿)

REEL No. A-0269
0198
アジア歴史資料センター

大日本帝國政府

同日海防ニ於テ我飛行機ヨリノ爆撃投下弾（死者十五名、傷者十八名）アリタル外、佛印側ノ間ニ別段ノ紛争モ無ク終ハレリ

（因ミニ我中央ノ命令ニモ違反シテ二十一名ノ死傷者ヲ出シタル事件ニ関シ、仏国大使ト折衝セラレタル通リ）

新隊ノ越境ハ我陸軍中央ニ於テモ問題トナリ責任者ノ處分行ハレタリ

（閑院参謀総長宮ノ御退職、安藤南支派遣軍指揮官其他ノ御譴責アリタル事件ハ）

（閣議ニ於テ）

（発表文ヲ）

（國定規格B5（二六〇×二五〇））
S 1.1.4.0-69 1073 JC 285

REEL No. A-0269
0193
アジア歴史資料センター

MEMORANDUM

Demands have been made of the French authorities, accompanied by threats of force, for the transfer of private property to Japanese interests.

2. Similar demands have been made for the handing over to the Japanese forces of additional military facilities and establishments in Indo-China, and much property has been requisitioned under duress.

3. Private citizens have been arrested at the instance of the Japanese military, on the pretext of failure to pay taxes, communist affiliation, or connexion with the Chinese Government. On September 26th, for instance, the Japanese military authorities at Hanoi arrested a number of Chinese, including members of the clerical staff of the Chinese Consulate. French protests against such violations of French sovereignty have been disregarded.

4. Cases involving insulting of the local police, disregard of French authority, and disorderly conduct in public by Japanese soldiery are reported to be on the increase.

5. Private residences are raided and searched in violation of French sovereignty, and private citizens and threatened with penalties unless they "cooperate" with the Japanese authorities.

6. On September 26th, Japanese military forces seized

seized possession of several districts of Hanoi, barricading the streets with barbed wire, taking over police stations, and preventing all means of communication between the local authorities, raiding local hotels and arresting many private citizens. Similar incidents took place at Haiphong. It is reported that these violations of French sovereignty took place on the direct orders of the Japanese commanding officer. The Forest Office at Baria has also been occupied by the Japanese forces. Protests by the French authorities were ignored.

British Embassy,
Tokyo.
23rd October, 1941.

REEL No. A-0269
0200
アジア歴史資料センター

A.1.1.0.30-49

No. 206 (155/741N/41)

AIDE MEMOIRE

His Majesty's Government have received information regarding recent actions of the Japanese military forces in Indo-China which appear to indicate an intention to infringe and disregard French sovereignty in that area. His Majesty's Government find it especially difficult to reconcile Japanese actions in Indo-China with declarations made recently by representatives of the Japanese Government to the effect that Japan's foreign policy is based on the maintenance of peace. Examples of these actions are contained in the annexed memorandum.

British Embassy,
Tokyo.
23rd October, 1941.

S 1.1.1.0-59 288. 1076

REEL No. A-0269

0201

アジア歴史資料センター

A1.1.0.30-49

南二普通第一六二號

口上書

帝國外務省ハ在本邦英國大使館ニ對シ十月二十三日附同大使館覺書第二〇六號ニ關シ左ノ通リ回答スルノ光榮ヲ有ス

帝國政府ハ曩ニ佛國政府ト佛領印度支那ノ共同防衛ヲ約定シ右實務ニ基キ日本軍隊ハ佛印ニ駐屯シ居ルモノナルヲ以テ現地日本軍カ右實務實現ノ爲必要ナル凡ユル措置ヲ講スヘキ當然且嚴肅ナル職責ヲ有スルコトハ英國政府ニ於テモ容易ニ諒察セラルヘキモノト思考ス

他方帝國政府カ佛國政府ニ對シ其ノ佛印ニ於ケル主權ヲ尊重スヘキ旨約定セルコト亦英國政府ノ了知セラルル通リニシテ帝國政府トシテハ現ニ右約定ヲ履行シアリ前記覺書ニ例示セラレタル事件ノ如キハ大部分事實無根ニ非サレハ故意ニ眞相ヲ歪曲シタルモノト云フヘク從而日本軍ノ近來ノ行動竝態度カ日本軍ニ於テ佛印ニ對スル佛國ノ主權ヲ侵犯シ又無視セントスルノ意向ヲ證スルヤニ認メラルルトナスハ全然誤解ニ基キタル推斷ナリト云ヘサル可カラサルハ帝國政府ノ甚タ遺憾トスル所ニシテ又右ヲ以テ近來日本政府高官ニ依リ爲サレタル日本ノ外交政策ニ關スル聲明ト一致セシムルコト困難ナリト感ストナス點モ帝國政府ノ諒解シ難キ所ナリ

尙右諸事項ハ帝國ト佛國トノ關涉事ニシテ第三國ノ容喙スヘキ筋合ニ非サルコトヲ附言ス

昭和十六年十一月二十一日

外務省

REEL No. A-0269
0202
アジア歴史資料センター